


# 天神・和賀地区

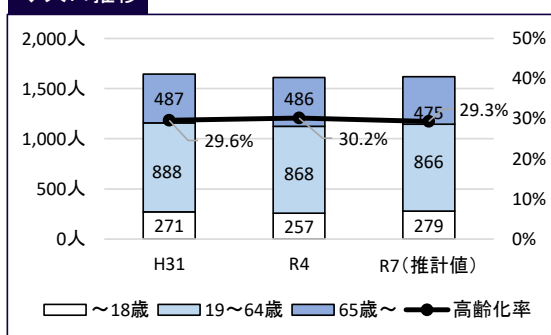
## ◆概要

【位置図】 	まち協名	天神・和賀地区まちづくり協議会		
	所在地	亀山市天神4丁目9-14	電話	0595-82-8204
	地区構成	天神 和賀町 海本町		
	地域特性	JR 亀山駅や鈴鹿川の南に位置し、東西には 県道 144 号線(鈴鹿・関線)・南北には県道 28 号線(亀山白山線)が通り、県道に 沿って古くから民家が連なり交通量も大変多いです。自然豊かで、春には観音山春祭りが開催され多くの人で賑わいます。お年寄りの割合が多い一方、地区内に学校教育施設等があるため、アパートや新しいミニ団地も出来ており、少しずつですが子どもの数も増えている、調和のとれた穏やかな田舎まちです。		
面積	156.1ha	ホームページ	<a href="https://tenjinwaga.jimdofree.com/">https://tenjinwaga.jimdofree.com/</a>	
めざす姿	お互いに助け合い、生きがいと希望の持てるまち			
地域の誇り	天神公園、鈴鹿川一里塚公園などがあり豊かな自然に恵まれている			

## ◆人口

	平成31年	令和4年	令和7年 (推計値)	増減
総人口	1,646人	1,611人	1,620人	-35人
人口密度	10.54人/ha	10.32人/ha	10.38人/ha	-0.22人/ha
65歳以上	人口 487人	486人	475人	-1人
	比率 29.6%	30.2%	29.3%	0.6%
18歳以下	人口 271人	257人	279人	-14人
	比率 16.5%	16.0%	17.2%	-0.5%
外国籍	人口 67人	67人		0人
	比率 4.1%	4.2%		0.1%

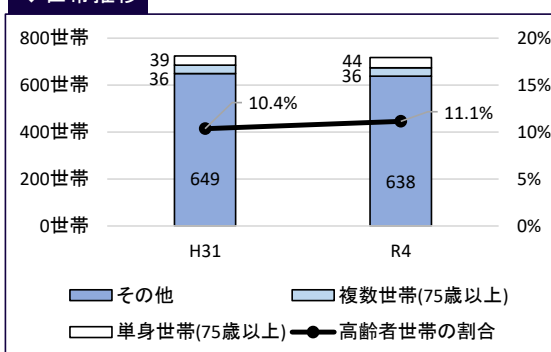
## ◆人口推移



## ◆世帯

	平成31年	令和4年	増減
総世帯	724世帯	718世帯	-6世帯
単身世帯 (75歳以上)	39世帯	44世帯	5世帯
複数世帯 (75歳以上)	36世帯	36世帯	0世帯
高齢者世帯割合	10.4%	11.1%	0.8%

## ◆世帯推移



## ◆介護保険認定者

	平成31年	令和4年	増減
要支援1.2	26人	28人	2人
要介護1~5	67人	70人	3人
合計	93人	98人	5人

## ◆地域組織

	平成31年	令和4年	増減
自治会	12	12	0
老人クラブ	2	1	-1
子ども会	2	2	0

◆福祉・医療・教育等に関する社会資源

民生委員・児童委員	3
福祉委員	11
介護保険施設・事業所	0
サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム	1
障がい福祉施設・事業所	0
児童福祉施設・事業所	1
病院・診療所	2
歯科	0
保育所	1
幼稚園	0
認定こども園	0
放課後児童クラブ	1
放課後子ども教室	1
子育て支援センター	0
学校(小・中・高)	2
乗り合いタクシー停留所	17

◆担当地域包括支援センター

亀山第2地域包括支援センター もくれん

◆サロン活動

	平成31年	令和4年	増減
ふれあい・いきいきサロン	1	2	1
子育てサロン	0	0	0
コミュニティサロン	1	1	0

◆福祉委員会活動

◆構成員 まち協役員 民生委員・児童委員 福祉委員

◆活動内容

【交流活動】

三世代交流事業として、三世代交流祭を行っています。年6回ふれあいミニサロンを行っています。

【訪問活動】

75歳以上一人暮らし高齢者に対し、年2回訪問活動を行っています。

【その他】

福祉だよりの発行を行っています。



地域見守り活動 のぼり旗  
(守る会の活動)



一人暮らし訪問のお弁当作り  
(福祉の会の活動)

◆まちづくり協議会の恒例事業

- ・高山観音春祭り
- ・文化祭・三世代交流会
- ・中学生ボーリング大会
- ・ペタンク大会
- ・秋のバス旅行
- ・ミニサロン

◆生活支援コーディネーターからのコメント

天神・和賀地区の人口は1,611人で、そのうち30.2%にあたる486人が65歳以上です。地域内718世帯のうち、11.1%にあたる80世帯が75歳以上のみで構成されています。また、地域内人口の4.2%にあたる67人が外国籍です。

地域の特色として、坂道が多い環境であり、徒歩で買い物や医療機関を受診することは難しく、亀山棕本線のバスでは、亀山駅経由でしか買い物等に行けない状況です。まち協では、福祉の会の福祉委員が中心となったサロン活動が活発に行われたり、男性を中心とした男の料理教室を開催したり、住民の集いの場が定期的に開催されています。また、夜間や登下校のパトロールなどが行われ、安心・安全の地域づくりに取り組まれています。今後、高齢化率が増加することも予想されることから、地域内で培われた関係性を礎とし、まち協役員、福祉部、民生委員・児童委員が連携しながら、地域のちょっとした困りごと(ごみ出し、草刈りなど)を住民同士支え合う、体制づくりの検討が進んでいくことが期待されます。